

熊本大学大学院自然科学研究科(博士前期課程)社会環境工学専攻
熊本大学大学院自然科学研究科(博士後期課程)環境共生工学専攻
広域環境保全工学講座

学位論文審査基準

Evaluation Criteria for Theses in Department of Environmental Conservation Engineering, Field of Architectural and Civil Engineering, Graduate School of Science and Technology

学位審査に当たっては、学位申請者が本学及び大学院自然科学研究科環境共生工学専攻広域環境保全工学講座の定める学位授与の方針を満たしていることを前提とする。また、学位申請者が学術研究における倫理性を有していることを条件とする。

As a prior condition to apply for a diploma, a candidate must satisfy all the requirements for the degree that are specified by the university and the Department of Environmental Conservation Engineering, Field of Architectural and Civil Engineering, Graduate School of Science and Technology. A candidate is required to conduct his/her scientific research in accordance with ethical standards.

博士前期課程 学位論文審査基準

Evaluation Criteria for Master's Thesis

次の事項を全て満たしていること。
All of the following requirements must be satisfied.

1. 課題設定の明確化 (Definition of Issues)

明確な問題意識とそれを解決すべく研究の意義および必要性が述べられていること。

Accurate awareness of the issues as well as the purpose and necessity of the research to solve the issues must be mentioned in the thesis.

2. 先行研究・資料の取扱いの適切性 (Proper Treatment of Preceding Studies and Data)

当該分野の先行研究・資料の把握と言及に加え、それを踏まえた研究の位置づけがはっきりしていること。

Previous studies and data in the relevant research filed and positioning of this study in the field must be mentioned in the thesis with clear and correct understanding of them.

3. 研究方法の妥当性 (Appropriateness of Research Method)

研究の目的に適した研究方法が用いられていること。

Proper methods for attaining the research purpose must be used.

4. 論証方法や結論の妥当性と意義 (Appropriateness and Significance of Demonstrational Process and Conclusion)

問題設定、分析、結果、考察までの論旨が明確でありかつ一貫していること。

The point of an argument of the thesis including the research subject, analyses, results, and discussion must be consistent and clear.

5. 論文構成・表現・表記法の適切性 (Appropriateness of Construction, Expression and Notation of Thesis)

学術論文としての語句の使い方や文章表現が適切であること。

Appropriate expressions must be used for the thesis as an academic paper.

6. 学術的または社会的な貢献 (Contribution to Academia or Society)

学術的に一定の新規性または独創性があるか、または社会の要請に答える可能性を持っていること。

The thesis must include the contents that show originality, creativity, or possibility of meeting social demands.

博士後期課程 学位論文審査基準

Evaluation Criteria for Doctoral Thesis

次の事項を全て満たしていること。

All of the following requirements must be satisfied.

1. 課題設定の明確化 (Definition of Issues)

明確な問題意識とそれを解決すべく研究の意義および必要性が述べられていること。

Accurate awareness of the issues as well as the purpose and necessity of the research to solve the issues must be mentioned in the thesis.

2. 先行研究・資料の取扱いの適切性 (Proper Treatment of Preceding Studies and Data)

当該分野の先行研究・資料の把握と言及に加え、それを踏まえた研究の位置づけがはっきりしていること。

Previous studies and data in the relevant research filed and positioning of this study in the field must be mentioned in the thesis with clear and correct understanding of them.

3. 研究方法の妥当性 (Appropriateness of Research Method)

研究の目的に適した研究方法が用いられていること。

Proper methods for attaining the research purpose must be used.

4. 論証方法や結論の妥当性と意義 (Appropriateness and Significance of Demonstrational Process and Conclusion)

問題設定、分析、結果、考察までの論旨が明確でありかつ一貫していること。

The point of an argument of the thesis including the research subject, analyses, results, and discussion must be consistent and clear.

5. 論文構成・表現・表記法の適切性 (Appropriateness of Construction, Expression and Notation of Thesis)

学術論文としての語句の使い方や文章表現が適切であること。

Appropriate expressions must be used for the thesis as an academic paper.

6. 学術的または社会的な貢献 (Contribution to Academia or Society)

学術的に新規性または独創性があるか、または社会の要請に答える可能性を持っていること。

The thesis must consist of the contents that show originality, creativity, or possibility of meeting social demands.

熊本大学大学院自然科学研究科環境共生工学専攻広域環境保全工学講座
「学位授与の方針」

博士前期課程(社会環境工学専攻)

1. 学位授与の要件

1. (在学期間) 2年以上、あるいは修業年限特例の適用を受けたものについては1年以上の在学期間があること。
2. (単位の修得) 本専攻の必修科目12単位を含む31単位以上を修得していること。
3. (研究の実施) 本専攻に所属する主任指導教員とその主任指導教員を含み本専攻に所属する教員3名以上をもって組織された研究指導委員会のもとで、在籍期間にわたり自主的に研究を行っていること。
4. (中間報告) 各学年における研究活動の状況について、研究指導委員会に対して中間報告を行っていること。
5. (修士論文) 最終的な研究成果を修士論文として、所定の期日までに研究指導委員会に提出していること。
6. (最終試験) 提出した修士論文について審査委員会より審査を受け、最終試験(口頭試問)に合格していること。

7. (学位審査) 主査1名、副査2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて本研究科教授会での審議によって最終判定される。
8. (修業年限特例の適用) 優れた業績を挙げたことにより、修業年限特例の適用を受けたものについても上記は同様とする。ただし、第4項の中間報告を以て、第6項の最終試験とすることができる。

2. 修得すべき知識・能力

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・社会基盤の建設・整備、環境保全、防災、美しい地域づくりなどに関する高度な知識と実践能力を修得している。
- ・将来、社会環境に携わる高度職業人として、人類の福祉と幸福に貢献する高い倫理観と使命感を有している。
- ・数学・力学関係の基本的素養、環境と人間に対する愛情、社会に関する幅広い教養を身に付けている。
- ・自己責任の下に自立的に活動し、自らの能力向上を行う強い意志力を有している。

2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

- ・地域防災とまちづくりをキーワードとして、産官および地域と連携した組織的な研究を推進する能力を身に付けている。
- ・産官学が連携する共同研究を通して、学際的な研究活動を行う能力を身に付けている。

3. グローバルな視野と行動力

- ・英語力を含め国際的なレベルでの情報交換が可能なコミュニケーション力を有している。
- ・個性を生かしつつも、グループで協働する能力を身に付けている。
- ・国際交流を積極的に行い、国際的にも高い評価を受ける最高水準の研究を推進する能力を身に付けている。

4. 地域社会を牽引するリーダー力

- ・産官学が連携する共同研究を通して、研究ネットワークを構築し、研究拠点へつながる可能性のある独創性、発展的、学際的緩急を展開する能力を身に付けている。
- ・地域間、国際間の研究交流を行い、国内外で高い評価を受ける最高水準の研究を推進する能力を身に付けている。

5. 専攻固有の項目

- ・自然環境と社会環境を保全する研究展開を通じて、地域社会の持続的な発展に対する課題を解決できる能力を身に付けている。

博士後期課程

1. 学位授与の要件

以下の各号を全て満たすこと。

1. 標準修業年限3年以上在学し、自然科学研究科が定める所定の単位数（必修のプロジェクトゼミナール4単位の他に選択8単位以上の合計12単位以上）を修得していること。ただし、在学期間については、優れた研究業績をあげた者は、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
2. 査読付き学術誌への筆頭著者としての掲載論文が2編以上あり、内1編は英文により著わされたものであること。
3. 国際会議において口頭発表・質疑応答を行える英語力を有すること。
4. 自主的な研究活動の成果として独自の博士論文を提出し、これを審査委員会が審査した後に、最終試験（口頭試問）に合格すること。
5. 学位審査は、主査1名、副査2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて本研究科教授会での審議によって最終判定される。

2. 修得すべき知識・能力

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・他講座・他専攻の教員や学生とも共通のテーマについて議論できる、体系的で総合的な思考能力を身に付けている。
- ・最先端の研究に関する高度な知識をもっており、自らの研究に活かせる技術力を有している。

2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

- ・幅広い知識に基づいた実践的技術力、柔軟な思考力を有している
- ・実社会における具体的な課題を実践的に解決できる能力を身に付けている。

3. グローバルな視野と行動力

- ・英語力を含め国際的なレベルでの情報交換が可能なコミュニケーション力を有している。
- ・国際交流を積極的に行い、国際的にも高い評価を受ける最高水準の研究を推進する能力を身に付けている。

4. 地域社会を牽引するリーダー力

- ・地域間、国際間の研究交流を行い、国内外で高い評価を受ける最高水準の研究を推進する能力を身に付けている。
- ・個性を生かしつつグループで、地域社会と協働する力を有している。

5. 専攻固有の項目

- ・研究ネットワークの構築等を推進し、研究拠点へつながる可能性のある独創的、発展的、学際的研究を展開する力を有している。